

口腔組織学特論・実習

《キーワード》 歯、歯胚、神経堤、唾液腺、味蕾、微細構造、超微細構造

《担当者名》 建部 廣明

【概要】

今日の歯科臨床では歯周外科手術を含め、歯の再植、インプラントなど、歯とそれを支持する歯周組織、顎骨を対象とする治療も多い。さらには、今後種々のレベルでの歯の再生治療も盛んになる。これらの治療法をより確実なものにし、治癒までの期間を短縮するためには口腔、歯周組織、歯を構成する細胞や細胞外基質、さらに、それらの改造現象やそこではたらく分子（因子）の理解が重要である。

本科目では主に形態学的手法を用いて、歯科臨床と関連の深い 歯を構成する細胞と細胞外基質、 歯周組織を構成する細胞と細胞外基質、さらに、 その発生過程に関する理解を深めることを目的とする。

【学修目標】

1. 歯、歯周組織、唾液腺の基本構造について説明できる。
2. 歯及び歯周組織の発生過程を組織学的に説明できる。
3. 実験動物の取扱い（麻酔、還流固定、安楽死、標本採取）を正しく行うことができる。
4. 光学顕微鏡及び電子顕微鏡標本の作製過程（脱灰、脱水、透徹、包埋、薄切）を正しく遂行することができる。
5. 切片の染色（免疫組織化学、in situ hybridization、電子染色）を正確に行い、顕微鏡所見を取ることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	歯、歯周組織の組織学的構造、発生過程		建部 廣明
2	動物実験の手技と標本作成方法		建部 廣明
3	光学顕微鏡、共焦点レーザー顕微鏡の取扱方法		建部 廣明
4	歯の標本を用いた「所見の取り方」		建部 廣明
5	「三次元構築」「形態計測」など画像処理の実際		建部 廣明
6	関連する論文の検索と抄読		建部 廣明
7	実験計画の立案、遂行、結果のまとめと考察、討論		建部 廣明

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

提出物、口頭試問

【教科書】

口腔組織・発生学 第2版 脇田稔ら編 医歯薬出版

【参考書】

授業中に指示する。

【学修の準備】

各自の研究課題に関連した国内外の文献を検索し、その研究で使われている方法論の基礎を調べておくこと。